

# 守りたいのは命、残したいのはきれいな水と空気

## 里の樂校2001「馬洗い淵の河童」

山田 辰美 (H13再話) (3 - 2)

前号よりつづき  
河童は馬洗い淵から水の流れにまかせてそおつとエノキに近づき、そこで川からそろりと姿を現した。小学校の低学年ほどの背丈で、くりくりと大きい目を輝かせて馬に近づいた。馬は河童に気がついたけど、そのまま草を食べてた。河童は眠りこけていると作をよけて、エノキによじ登ったかと思うと、いきなり馬の背に飛び乗った。びっくりした馬は前足を上げて空をかき、大きくいなないた。河童は馬の首にしがみつき、かろうじて振り落とされなかったけど、大きい目をもっと大きくした。一番驚いたのは与作だった。慌てて飛び起きると、馬から飛び降りた河童が川に向かって逃げるところだ。与作は「このいたずらもんが」と叫んで、足元の石を拾って投げつけた。当たるとは思わなかった。ただ、懲らしめるつもりだった。ところが、投げた石は逃げる河童のお皿に当たってしまった。河童はよろけながら川に姿を消した。瀬戸川は何事もなかったように、さらさら瀬音を立てていった。

翌日、与作はいつものように栗毛を引いて、水溶びにやって来た。馬洗い淵は、数多い瀬戸川の淵の中でも一二を争う大きな淵だ。川が大きくうねる曲がり角に大きな岩山が突き出ている。大水が出るたびに岩の根元が掘れて、深い淵を作っていた。青々とした水面はラムネビンのような不思議な模様を描いていた。上流からの流れ込みは激しく瀬音を立て、岩陰にくると渦を作っていた。淵の面はおだやかでも、底に向う流れは強い。流れてきた枯れ枝なんか渦に巻き込まれ、深みへと引き込まれてしまう。与作は淵の浅場で、馬の腹を藁でしごいてやってた。馬は気持ちよさそうに目を細めて、ぶるぶると首を振った。

つづく



川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

## 瀬戸川通信 第6号

発行 瀬戸川フォーラム 平成14年 1月12日



瀬戸川水系朝比奈川左岸 岡部中学校付近

## 第4回 瀬戸川フォーラム 2001 岡部町で開催

瀬戸川フォーラムでは平成13年11月23日(勤労感謝の日)に「町民センターおかべ」において「せと川フォーラム2001」(第4回)を開催しました。今回のフォーラムは、「瀬戸川 朝比奈川の里山と清流を守るために」を副題に東海道の21番目の宿場町でもあり玉露茶や龍勢、筍で有名な志太郡岡部町で開催されました。今回のフォーラムでは前半に岡部町周辺の抱える環境課題である川づくり、竹取物語、ホタル、里の樂校の各集いを分科会方式により開催した後、後半では全体会を開催して分科会での意見の分かち合いをしました。

### 【フォーラムの内容】

#### 朝比奈川・川づくりの集い

(行政との協働作業)

静岡県島田土木事務所で行う岡部中学校周辺の朝比奈川改修事業への住民意見の反映を目的とした現地見学会とワークショップ

#### 竹取物語の集い(竹について考える)

作品展示 体験コーナー

竹細工 竹炭 竹楽器づくり

竹林問題と竹の利用について、竹との関わりを持つ森林組合やボランティア、行政との話し合い

#### ホタルの集い

ネイチャークラフトづくり

ホタルの復元や保全活動を行っている人たちと関心を持つ人たちの交流 活動報告

#### せと川里の樂校2001交流会・秋の集い

夏に行われた「せと川子供キャンプ里の樂校2001」の参加親子とリーダーとの交流会、「里の遊びと試練大賞」、里の樂校父母の会、キャンプのビデオ上映

#### 全体交流会

—瀬戸川 朝比奈川の里山と清流を守るために—  
分科会発表+公開討論会

座長 富士常葉大学 助教授 山田辰美

(主催) 瀬戸川フォーラム

(共催) 岡部町/藤枝市/焼津市

(協力) カワバタモロコを保護する会  
静岡県野鳥愛護協会大井川支部  
静岡昆虫同好会

### 瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとでの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。



朝比奈川 川づくりの集い 岡部中学校上流付近

## 協賛者

黒川 医院		菅ヶ谷 内科 医院		
青島歯科医院	エクノスワタナベ	岡歯科医院	小柳津久男事務所	(有) 桑原モータース
佐野設計工房 一級建築事務所	服部歯科医院 音羽町診療所	(株) 松浦不動産	(株) 山田組	

### 瀬戸川フォーラム 参加団体

しずおか流域ネットワーク/志太自然ネットワーク  
(社) 藤枝青年会議所/(社) 焼津青年会議所/藤枝市森林組合  
瀬戸川 朝比奈川非出資漁業協同組合/静岡県島田土木事務所  
(社) 島田建設業協会青年部/大井川流域ネットワーク

事務局 静岡県島田土木事務所 企画検査課 安藤 0547-37-5272  
瀬戸川フォーラムのホームページもご覧ください。http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/  
編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦





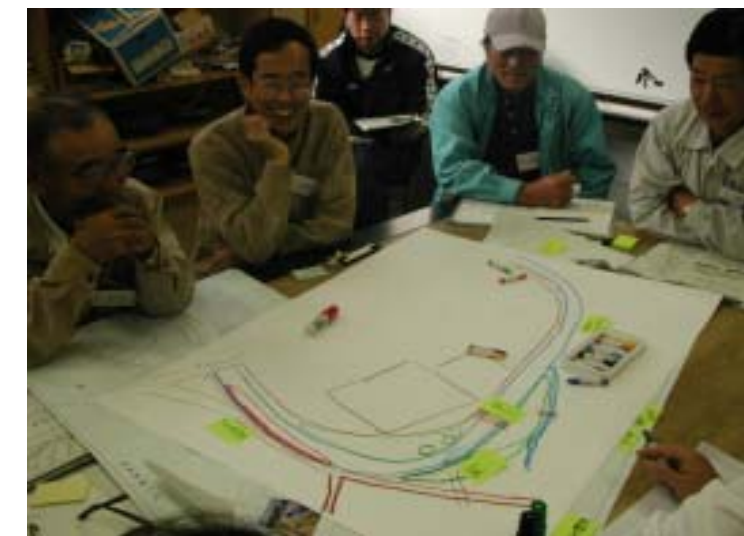
# 第4回瀬戸川フォーラム 朝比奈川 川づくりの集い

～あなたとつくる未来の川～

## 行政との協働による地域住民の意見の反映

瀬戸川フォーラムと静岡県島田土木事務所は共催で朝比奈川の新たな整備計画に基づく区間の工事に先立ち、実施計画を地域の住民や岡部中学校などの参画の元に提案や意見を聞きながら合意形成を図りより豊かな自然環境を育む朝比奈川の将来像を図るため川づくりの集いを開催しました。

当日は、巨石の森公園に地域の住民の方40名にも及び参加者が集まいただきました。参加者は40から60代の会社員、農業の方が多く、計画地周辺の町内の方がほとんどでしたが、環境活動に熱心な「ナチュラル」の女性の出席がひかりました。出席者へのアンケートによれば「子供の頃一番楽しかった遊びは？」の問いにほ



役を務めながら、午前中に工事区間である岡部町の白岩堰から村志母橋までの約1.5kmについて現地見学を行い、途中の朝比奈川公園では「志太自然ネットワーク」



とんどの人の回答が「水遊び、魚釣り」になっていたのが印象的でした。

龍勢、大旅籠、鶯の細道、玉露の里の班に分かれ、瀬戸川フォーラムのメンバーが進行



の落合先生から地域の自然のお話を聞き、現地状況の把握を行いました。午後からは町民センターで残すべき自然や地域の宝物であるお地蔵さんなど、現地状況やみんなの思いである未来の朝比奈川を地図に書き写す作業を行ったあと発表会、人気投票をしました。

現状の整理作業では住民の方々より以前の洪水被害を受けた時の体験や子供の頃よく遊んだ淵が今は無くなっていること、岡部中学校付近の河川敷の竹林は外に広がるものではないことから残せたらいいのだが、さらには下流の改修済み区間の維持管理作業をしている住民の方からは蛇籠の網が草刈り作業に不向きであるとの指摘、守るべき箇所はがっちりとコンクリートで固めてほしいなどの要望事項もでていました。

各班ごとにワークショップ形式（KJ法）による話し合いを行い、未来の朝比奈川を思いポストイットに具体的な施設やイメージを記入していき、合意形成を図りながら未来の朝比奈川の絵を仕上げてくださいました。完成した絵を参加者全員と分かち合うために発表会を行った後に人気投票を行いました。短い時間の中で発表者も工夫をして発表していただき、各班とも甲乙つけがたい提案ばかりでしたが、一番人気の提案は現地の巨木や並木を残し巨石の森と河川公園（藤枝市）をつなぐ吊り橋や飛び石、利用者の利便を考慮したトイレ、昇降路の設置、さらに、今は無くなってしまった淵や岡部中学校の環境教育の場の創造を提案した「大旅籠班」の意見でした。

この各班の計画は島田土木事務所、コンサルタントにより実施計画に具体的に反映されることになっています。さらに、今回計画づくりに参加していただきました皆様には、工事やその後の環境教育、地域行事への積極的な利用、維持管理作業等につきましても積極的なご意見、提案、参加を期待するものであります。

報告の最後に当たり現地見学から計画づくりまで時間が少ない中、地域住民の方の積極的な提案により盛況の内に終了できましたことは、岡部町役場をはじめ住民の方の絶大な協力の賜と感謝するものであります。この場を借りて御礼申し上げます。



## 大好評「エコマネー(コミュニティー通貨)」

今回のフォーラムの目玉として、エコマネー「どんぐり」を試験的に取り入れてみました。「どんぐり」は想定していた以上に大好評で積極的な交流を生み出しました。フォーラムに参加して環境宣言をしたり、環境に関心を持ち行動した人や意見発表をした人に配布され、当日の地域特産物を盛り込んでスタッフと地元の人たちにより準備された昼食や朝市の農産物（みかんやキノコ、野菜）、竹細工、ネーチャークラフトづくりに消費されました。

朝市に参加してくれた農家の人たちにも品物がよく売れ、言葉かけをしてくれたと喜ばれました。子どもたちにも大人気でした。今回のエコマネーは瀬戸川フォーラム今回だけの取り組みで、一部お金と交換したりとエコマネーのまねごとでしたがこれからも取り組んでみたい事柄です。

※エコマネーとは（通産省サービス産業課長 余暇開発室長の加藤敏春氏インタビュー記事）一つの通貨からでも、人間がお金に使われない社会は始められる。



<p>エコマネー「どんぐり」からのメッセージ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>この「どんぐり」は、みづかな環境に関心を持ち行動した人に与えられます。</li><li>この「どんぐり」で、おにぎりや岡部のくだものや野菜などと交換する事ができます。</li><li>この「どんぐり」は、会場内での川フォーラムの催しに参加する事ができます。</li><li>この「どんぐり」が使えるのはこの会場内で今日だけです。</li></ol>	<p>エコマネーとは</p> <ol style="list-style-type: none"><li>環境に関心を持ち、環境のために行動した方のお金で表せない「善意」に感謝の気持ちを伝えるものです。</li><li>特定の地域社会やコミュニティの中だけで通用する通貨で、地元の人々の交流を活発にするために導入されます。</li><li>「エコマネー」を交換することによって、人と人のつながりができ、地域がまとまって環境保全に取り組むようになります。</li></ol>
---	--

海岸の清掃や草取りなどのボランティア活動と引き換えにエコマネーを使う。貯めて町営の温泉の入浴券と交換する。将来介護サービスを受ける券として活用する。あるいは、農作業を手伝ってくれた人にエコマネーでお礼をする。引換券、クーポン券、電子マネー利用など形は様々だが、現行の通貨制度のお金とは別の通貨、エコマネーを用いる地域が増え始めている。「エコマネーは地域通貨。取引の当事者が自ら値づけていけるお金です。使う人それぞれの気持ち、価値観に合わせ、実需に即して使える一物多価。現行の通貨は一物一価で、人の多様な考え方や価値を表すのにふさわしくない。一物多価なら、市場主義経済の一元的価値に支配された社会を、一人ひとりの思いが活きる多様な社会につくり直すことができると考えました」。

